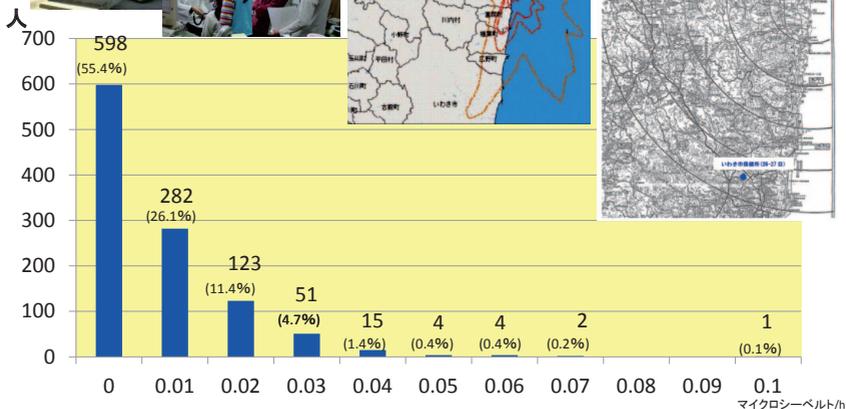
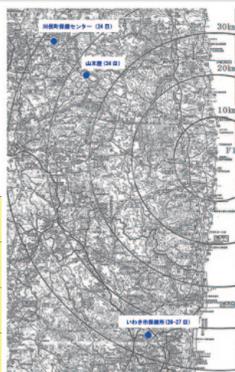


小児甲状腺スクリーニング調査



原子力安全委員会「小児甲状腺被ばく調査結果に対する評価について」平成23年9月9日

2011（平成23）年3月23日のSPEEDIの試算を踏まえ、小児への健康影響を把握するため、原子力安全委員会緊急助言組織からの依頼（3月23日付）に基づき、現地原子力災害対策本部では小児甲状腺スクリーニング調査を実施しました。調査した1,149人のうち、適切に測定された1,080人の結果が示されています。測定場所の環境放射線量が簡易測定を行うには適当でなかった（測定場所の空間線量率が高く、簡易測定による適切な評価が困難であった）ため、適切に測定結果が出せなかった66人と年齢不詳の3人の結果は除かれています。調査を受けた全員が、原子力安全委員会がスクリーニングレベルとしている「毎時0.2マイクロシーベルト」を下回っていました。

甲状腺への被ばくについて、これまでに行われた調査では、甲状腺がんの増加が認められる可能性を示唆する結果はありません。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

本情報は事故当時（2011年）の情報です。

関連Q&A

- ・1章 QA33 放射線による子どもへの健康影響について教えてください
- ・1章 QA37 子どもの甲状腺がんのリスクはどれくらいですか